

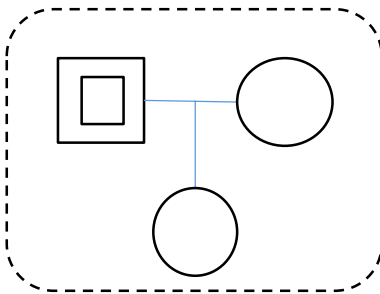
第28回職業リハビリテーション研究・実践発表会 就労移行支援事業所利用開始から一般就労定着支援まで のACTを活用した実践発表

- 森島 貴子（社会福祉法人 釧路のぞみ協会 自立センター）
- 竹谷 知比呂（社会福祉法人 釧路のぞみ協会 自立センター）
- 和泉 宣也（社会福祉法人 釧路のぞみ協会 自立センター）
- 鈴木 浩江（社会福祉法人 釧路のぞみ協会 自立センター）
- 勿田 文記（株式会社 スタートライン）

事例 1 (就労移行でのACT活用)



- A氏～47歳男性 躁うつ病(精神福祉手帳3級)



家計は妻が主で働き家計を支えており、
A氏は、家事や子供の送迎などを分担している。

釧路市内で出生、地元の高等学校卒業後一般就労。

平成24年12月に子供の誕生と仕事のストレスが重なり発病。

体調が安定してきたので、就職に向けて活動したいとの希望があり、市内の相談支援事業所から紹介がありつながっている。



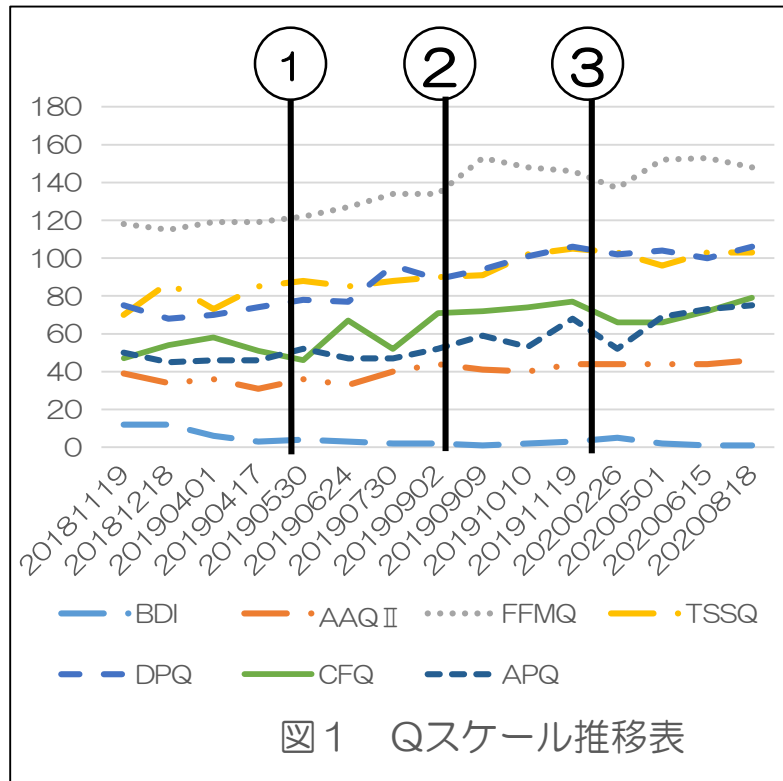
就労移行支援事業所利用開始時の様子

- | | | |
|-------------------|---|------------|
| ・利用開始時のA氏の活動頻度・時間 | → | 現在の頻度・時間 |
| 月・水・金 | | 月・火・木・土 |
| 9:00～13:00 | → | 9:00～15:30 |
| (水)のみ9:00～13:30 | | |

利用開始時→家族のことはものすごく大事にしているが、自分を大切にできていない

- ・『～しなければならない』『しなければならないことができていない』との発言が多かった
- ・自分がやるべきことは完ぺきにやりたい…助けてほしい時でも誰にも言えない…
- ・「価値」とは何か？学ぶ目的がわからない…
メタファーはイメージがわからない…
セルフ・コンパッションは苦痛…

ライフ・イベント



- ①A氏の父親の病気が判明
子供がいじめに
ことが判明

→毎日通所してもらい、生活リズムを整えることを優先してもらう

支援員と面談、助言

- ②S L 研究員来釧
個別面談実施

→ACTへの理解が進み、イメージすることができるようになってきた

妻はよき理解者…恵まれた環境

- ③父親が逝去

実家の片付け等で疲弊

→妹や妻の支えで乗り越えられた

毎日ACTのエクササイズを積極的に取り組むようになった



セルフ・コンパッション

・A氏の「価値」～家族に愛情を注ぐこと

→家族を思いやる気持ちと同じように自分を大切にするよう助言

自分を抱きしめる行為を促すと、抵抗を示していたものの、徐々に涙を流し受け入れることができるようになった。

自分が健康で元気であることが妻子の幸せ＝セルフハグ

妻子を大切に思う気持ちを自分に向ける＝「価値」に向かう



まとめと今後の展望

・利用開始時よりも、前向きにとらえられるようになり、精神的にも安定してきている。以前の自分を振り返ることができるようになってきている。

ACTの理解が進み、物事を客観的に捉えることができるようになった。

・「家族を大切にする」＝「自分を慈しむ」と考えられるようになり、家族との時間を大切に持ちながら働いていくことを目標に次のステップに進もうとしている。

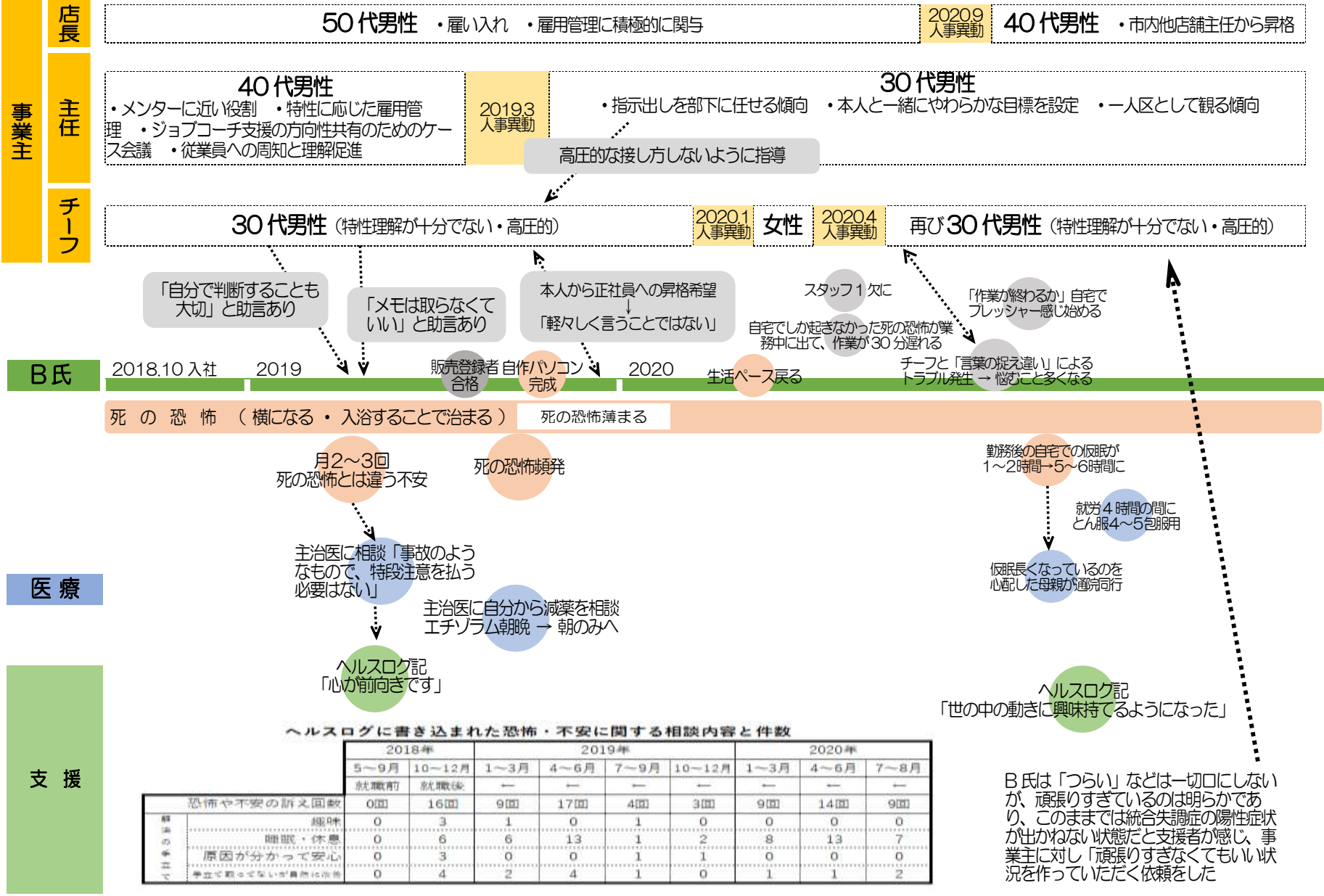
「妻はフルタイムだが、自分は無理のない時間で家事・育児を協力しながら体調を崩さずに働きたい」

事例2（就職現場でのACTの活用）

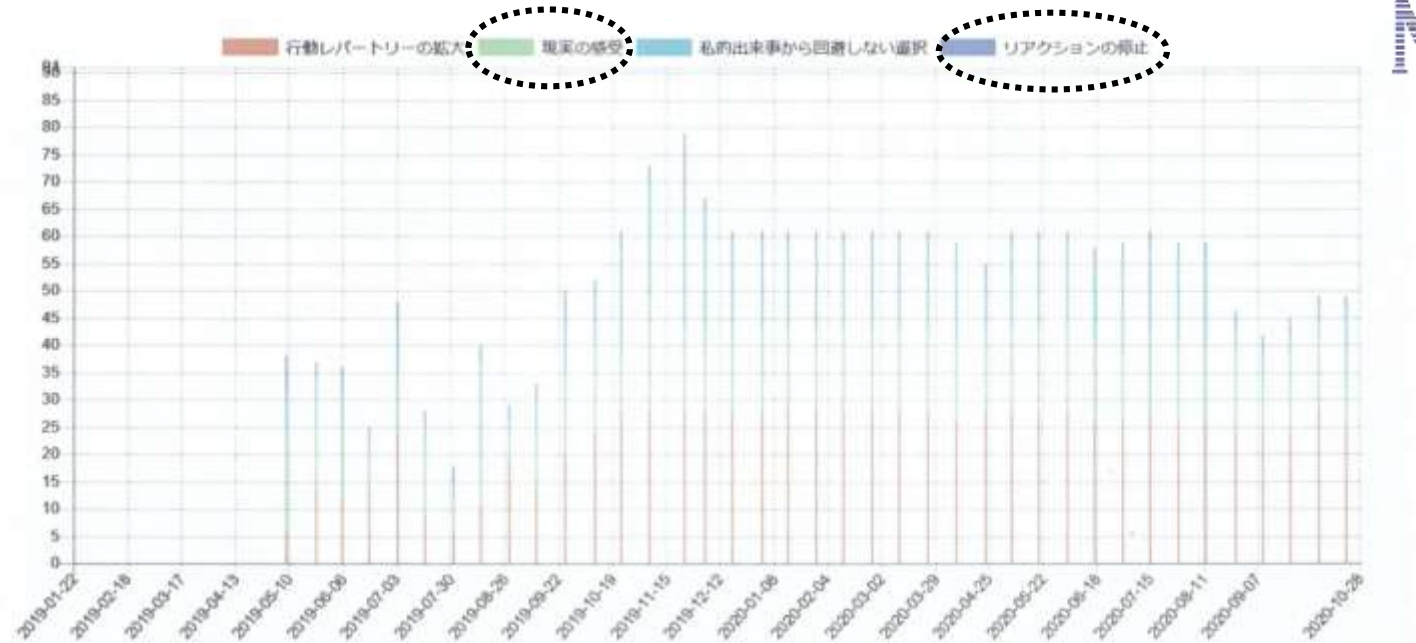
B氏～男性49歳 統合失調症（精神2級）

- 地元の進学高卒業後、関東の大学へ進学。卒業後同大学の大学院に進学したが、不眠から、幻聴幻覚が現れ、統合失調症を発病、大学院を中退し帰釧する。自殺未遂等で入退院を繰り返す。
- 平成25年に就労継続B型への通所開始、一般企業への就労意欲が強く、平成28年に就労移行への通所開始となる。
- 就労移行でのトレーニングにおいても働きたい気持ちが強く、47歳の時に初めての就職（スーパー品出し）に至る。平成30年からSSSを導入、現在に至る。

※ BDIについては、発表論文集をご参照ください



APQ



TSSQ



ともに○部分が極端に少ない→アプローチしたいが...

まとめ

- B氏にとっての価値は「働いて充実した生活を送る」こと
- 就職後この2年、職場の人的環境の変化等もあり、体調をくずすことも度々みられているが、欠勤数はごく僅か
- 毎日ヘルスログの入力とACTのエクササイズを継続
- 就労開始時には「安定しています」という表現しか記さなかったが、最近は「自分
は不潔でもいいのです、という思考はウソを言っています」というような自分の思
考に関する詳細な記述が多くなっている。
- 今後も安定して働き続けるには、毎日ヘルスログの
入力とACTのエクササイズを継続していくのが
良いと考えている。
- APQ・TSSQの結果から「客観的に今の自分の
状態や状況を把握すること」ができるようになると、
より有益な職業生活を送られる可能性がある。
- 一方で、上記の原因は、「厳格な父親の導きによる常に前に進み続けなければい
けない思考」にあると想定される。しかし50年弱このように生きてこられた部分
にアプローチしていくことが果たしてB氏の幸せにつながるのか、慎重に考える必
要がある。

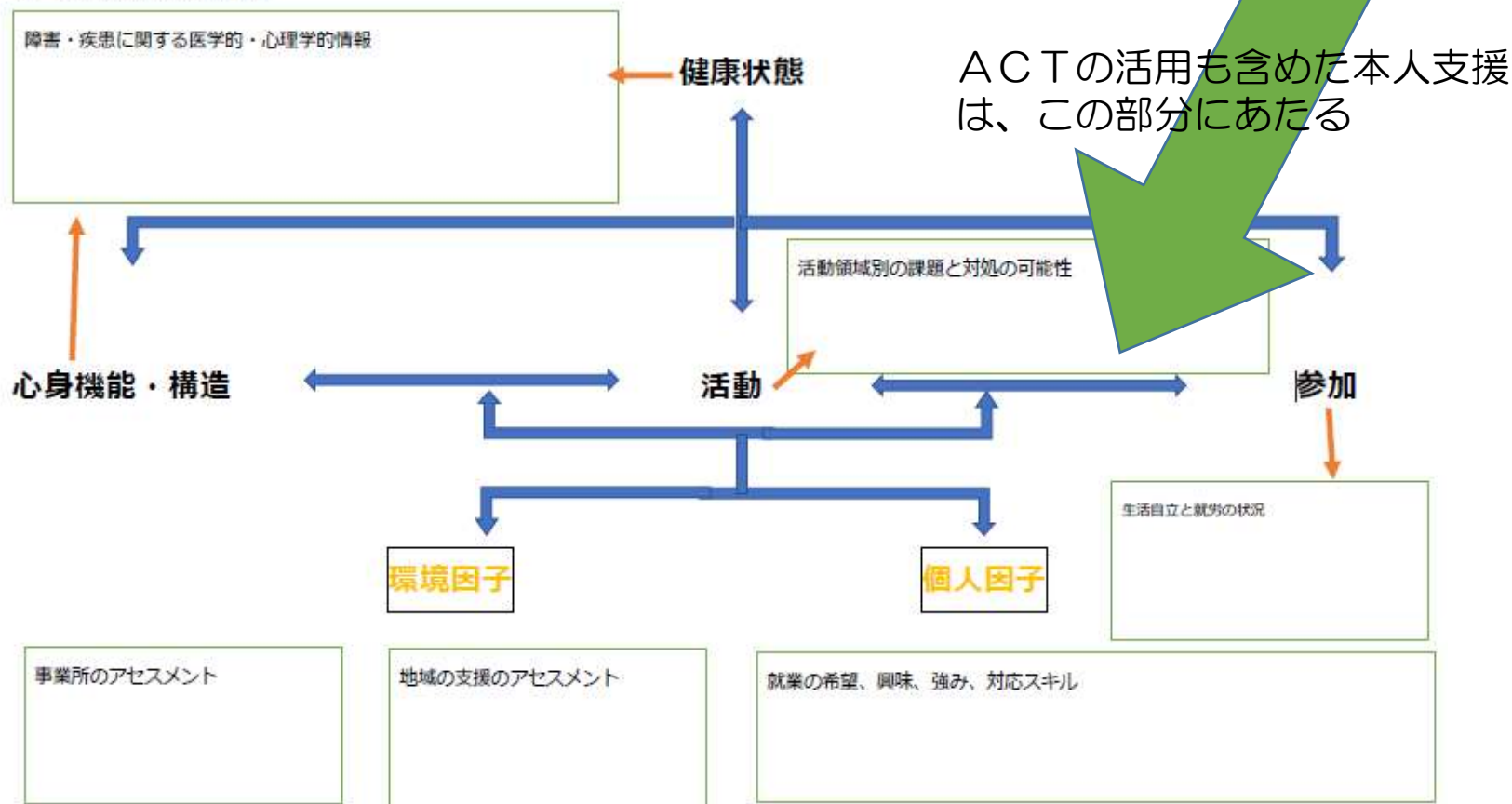


B氏にとっての価値「働いて充実した生活を送る」ことの実現のために

職業生活に関するICF

目標とする生活機能の全体像（本人、企業、支援者関係者で共有する情報）

1. 何のために働くのか？（自己実現・夢、経済的自立、家族の希望）
2. 無理なく安全に能力を発揮できる、希望の職種、仕事内容の詳細（職務の調整、配慮や役に立たない支援、勤務形態、条件、快適に思える環境等）
3. 日常生活や地域生活の状況や支援制度（障害者手帳、経済的自立）
4. 取り組む必要のある自己管理



※ 発表論文集をご参照ください